科目名	MOT特論（Management of Technology）

学　年	専　攻	単　位　数	必修 / 選択	授業形態	開講時期	総時間数
第1学年	経営情報工学	2単位	必修	講義	後期	90 時間

担　当　教　員	【常勤】助教　根岸　可奈子

学　習　到　達　目　標

科目の到達目標レベル	・経路依存性を背景とした技術経営の特徴を説明することができる。 ・競争優位性を確立する手段としての技術活用方法について説明できる。 ・技術経営の事例を分析し考察することができる。

到達目標（評価項目）	優れた到達レベルの目安	良好な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安
到達目標①	歴史的背景を踏まえ各国ごとのMOTについて説明し独自の考察を述べることができる。	歴史的背景を踏まえ各国ごとのMOTについて説明し、既存研究が指摘しているのとほぼ同様の考察を述べることができる。	歴史的背景を踏まえ各国ごとのMOTについて説明できる。	歴史的背景を踏まえ各国ごとのMOTについて説明できない。
到達目標②	講義内で学んだ範囲での戦略論や組織論を踏まえ技術がもたらす競争優位について説明し独自の考察を述べることができる。	講義内で学んだ範囲での戦略論等を踏まえ技術がもたらす競争優位について説明し既存研究が指摘しているのとほぼ同様の考察を述べることができる。。	講義内で学んだ範囲での戦略論や組織論を踏まえ技術がもたらす競争優位について説明できる。	講義内で学んだ範囲での戦略論や組織論を踏まえ技術がもたらす競争優位について説明できない。
到達目標③	技術経営に関する実例を自分で見つけ情報収集を行い分析をし、考察することができる。	技術経営に関する実例を自分で見つけ情報収集を行い分析をすることができる。。	技術経営に関する実例を自分で見つけ出し、関連する情報を調べることができる。	技術経営に関する実例を自分で見つけ出し、関連する情報を調べることができない。

学習・教育到達目標	(C)②	JABEE基準1（2）	(d)－1

達　成　度　評　価　（%）

MOTの必要性と各国企業の特徴を説明し課題を見つけ、解決策を提案することができる。	期末試験において評価する。	40%
MOTと深く関連する経営戦略論や組織論の観点からMOTの重要性を説明することができる。	期末試験において評価する。	40%
MOTに関する事例を自分で見つけ出し関連情報を収集し、課題を発見し解決策を提案することができる。	口頭発表において評価する。	20%

評価方法 / 指標と評価割合	中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80		10	10				100
知識の基本的な理解【知識・記憶、理解レベル】		○							
思考・推論・創造への適用力【適用、分析レベル】		◎		◎					
汎用的技能【論理的思考力】		○		○					
態度・志向性(人間力)【主体性】					◎				
総合的な学習経験と創造的思考力【創成能力】					○				

関連科目，教科書および補助教材	
関連科目	技術経営、組織論
教科書	無し。毎回レジュメ、関連資料を配布する。
補助教材等	適宜雑誌記事、新聞記事を配布する。

学習上の留意点
経営情報学科5年次選択の技術経営の発展段階に位置づけられる科目です。しかし、取らなかった、取れなかった学生にも分かるよう基礎から説明します。

担当教員からのメッセージ
ただひたすら良いものを作れば、自動的に消費者が購入してくれるという時代ではなくなりました。いかに優れた技術にふさわしい対価を市場から得るのかは、企業にとって重要な課題です。ぜひ、理解を深めてから社会に出てくれればと思います。

授　業　の　明　細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 （予習・復習）
1	講義紹介	講義の進め方、評価方法について説明できる。	（予習）シラバスに目を通す （復習）シラバスおよび配布資料の見直し
2	日本企業におけるMOT	歴史的推移および構造のなかで、日本企業におけるMOTの特性を説明できる。	（予習）1回の見直し （復習）日本企業の特性を確認する。
3	アメリカ企業におけるMOT	歴史的推移および構造のなかで、アメリカ企業におけるMOTの特性を説明できる。	（予習）2回内容の見直し （復習）アメリカ企業の特性を確認する。
4	技術とその発展環境	技術発展に影響を及ぼすマクロドライバーについて説明することができる。	（予習）3回内容見直し （復習）アジア企業の特性を確認する
5	ロボットの商用化にみる各国企業の特性	実際の事例から、各国企業のMOTの課題を明らかにすることができる。	（予習）1回の見直し （復習）事例をまとめ考察を付ける
6	企業内における技術的関門	死の谷、ダーウィンの海と呼ばれる「関門」についてそれぞれ説明することができる。	（予習）５回内容の見直し （復習）「関門」と課題をまとめる
7	競争優位性の観点からみた技術活用	競争優位の確立のため技術を使用する場合どのような戦略があるのか説明できる。	（予習）３６回内容見直し （復習）各種戦略をまとめる
8	知識連鎖	「知識」がどのように企業内外で連鎖し発展していくのか説明できる。	（予習）７回内容見直し （復習）知識連鎖についてまとめる。
9	クラスター	知識の集積地であるクラスターについて説明できる。	（予習）８回内容見直し （復習）クラスターについてまとめる
10	組織構造とマネジメント	アーキテクチャ論をベースに産業構造特性について説明できる。	（予習）9回内容の見直し （復習）アーキテクチャについてまとめる
11	新技術と倫理的課題	社会における新技術の可能性と危険性について意見を述べることができる。	（予習）10回内容の見直し （復習）倫理的課題についてまとめる
12	技術移転と海外研究開発	多国籍企業の活動をベースに、国際的な技術フローを説明できる。	（予習）発表準備を行う （復習）技術移転についてまとめる
13	学生による発表１	興味のある企業ないし商品を選択し、その企業における技術経営を説明し課題を取り上げ解決策を提示することができる。	（予習）発表準備を行う （復習）１から12回のまとめを見直す
14	学生による発表２	興味のある企業ないし商品を選択し、その企業における技術経営を説明し課題を取り上げ解決策を提示することができる。	（予習）発表準備を行う （復習）これまでのレジュメを見直す
	期末試験		
15	期末試験解説	中間試験の解説を行うことにより誤った理解を訂正すると同時に同範囲について復習し各回の具体的なポイントについて説明できる。	（予習）自己採点 （復習）間違えた個所の解き直し
総 学 習 時 間 数			90 時間
講　　義			30 時間
自学自習			60 時間